

ほけんだより

病児・病後児保育「みどり」
令和6年11月発行

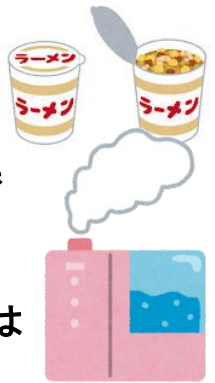


今月のテーマは「**低温やけど**」についてです

低温やけどとは、体温より少し高めの温度(44℃～50℃)のものに長時間触れ続けることによって起きるやけどのことです。急激に熱さや痛みなどを感じるわけではないので本人が気づくのが遅く、症状が悪化してしまうケースが多いです。低温やけどによる見た目の変化はありませんが、痛みが出るまで患部を確認することはありませんから、気づかないのです。電気毛布やホットカーペット、電気あんかなどを使用する際は、寝床が温まったら電源を切ったり、設定温度を下げたりするなど注意しましょう

こんなところでも要注意

- ① カップラーメンの待ち時間・・・熱湯の入った容器は軽くて倒れやすいので、子どもの手の届かないところで準備しましょう。
- ② ヘアアイロンでのやけど・・・電源をいれたまま放置すると30秒で100℃に達するので、一瞬で事故につながります。
- ③ 加湿器の蒸気吹き出し口に触れる・・・床や子どもの手の届く所には置かないようにしましょう。
- ④ スマートフォンを充電中、機器が子どもの頬に触れてやけど・・・充電時を含め、発熱しているスマホは子どもの手や身体が触れそうなところに置かないようにしましょう。



万一やけどをしたときは！？

すぐに冷水で冷やします

⇒⇒子どもの手のひら以上のやけどをした場合は、水ぶくれを破らないように、

清潔なガーゼで覆って直ぐに医師の診察を受けましょう。